

医学生の学力低下問題に関する アンケート調査報告（抜粋）

対象： 全国国公立医科大学（医学部）80校
医学部長あるいは教育担当責任者

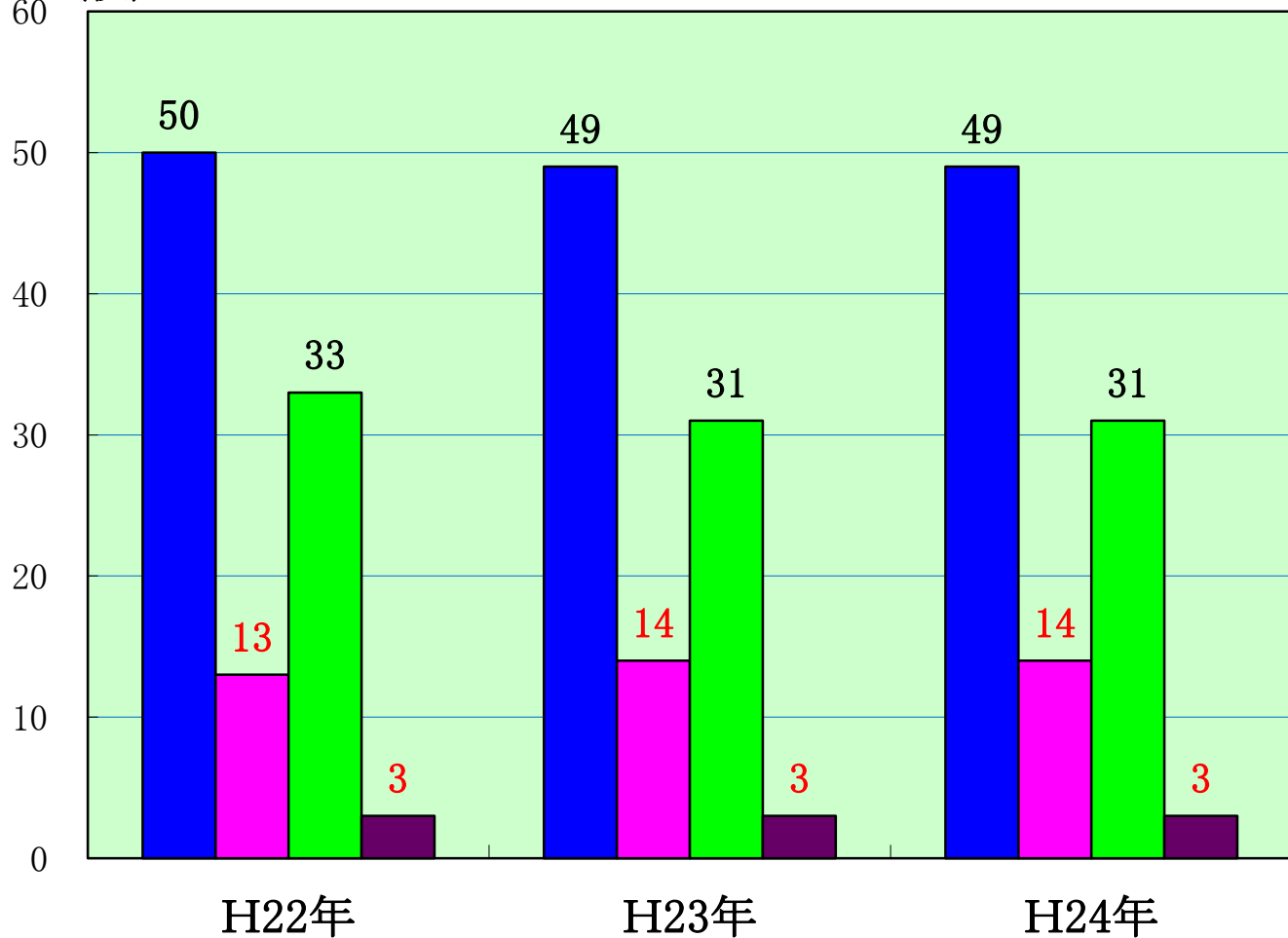
調査対象期間： 2011年3月～2012年4月

国公立大学の入試方法【一般選抜】

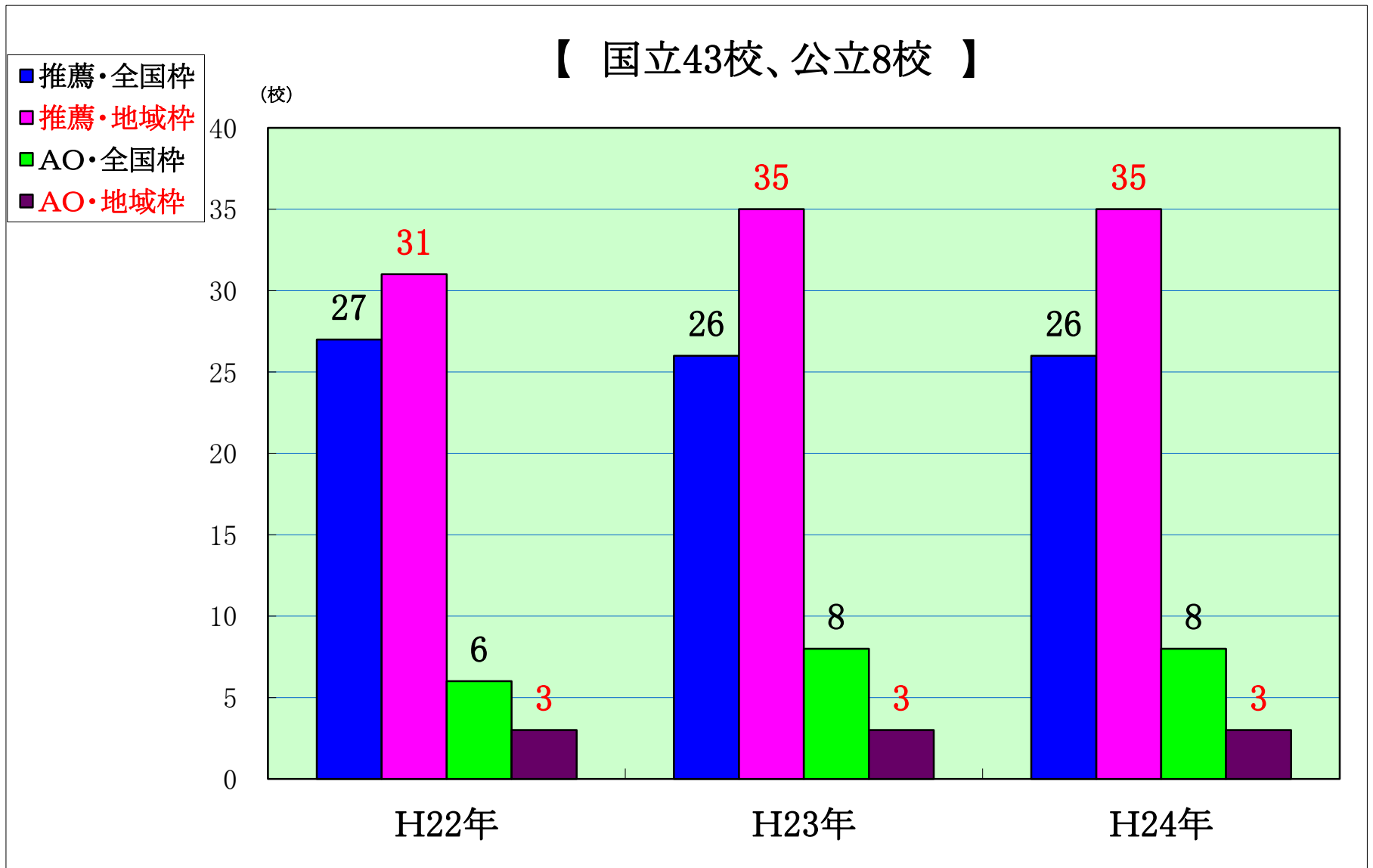
【国立43校、公立 8校】

- 前期・全国枠
- 前期・地域枠
- 後期・全国枠
- 後期・地域枠

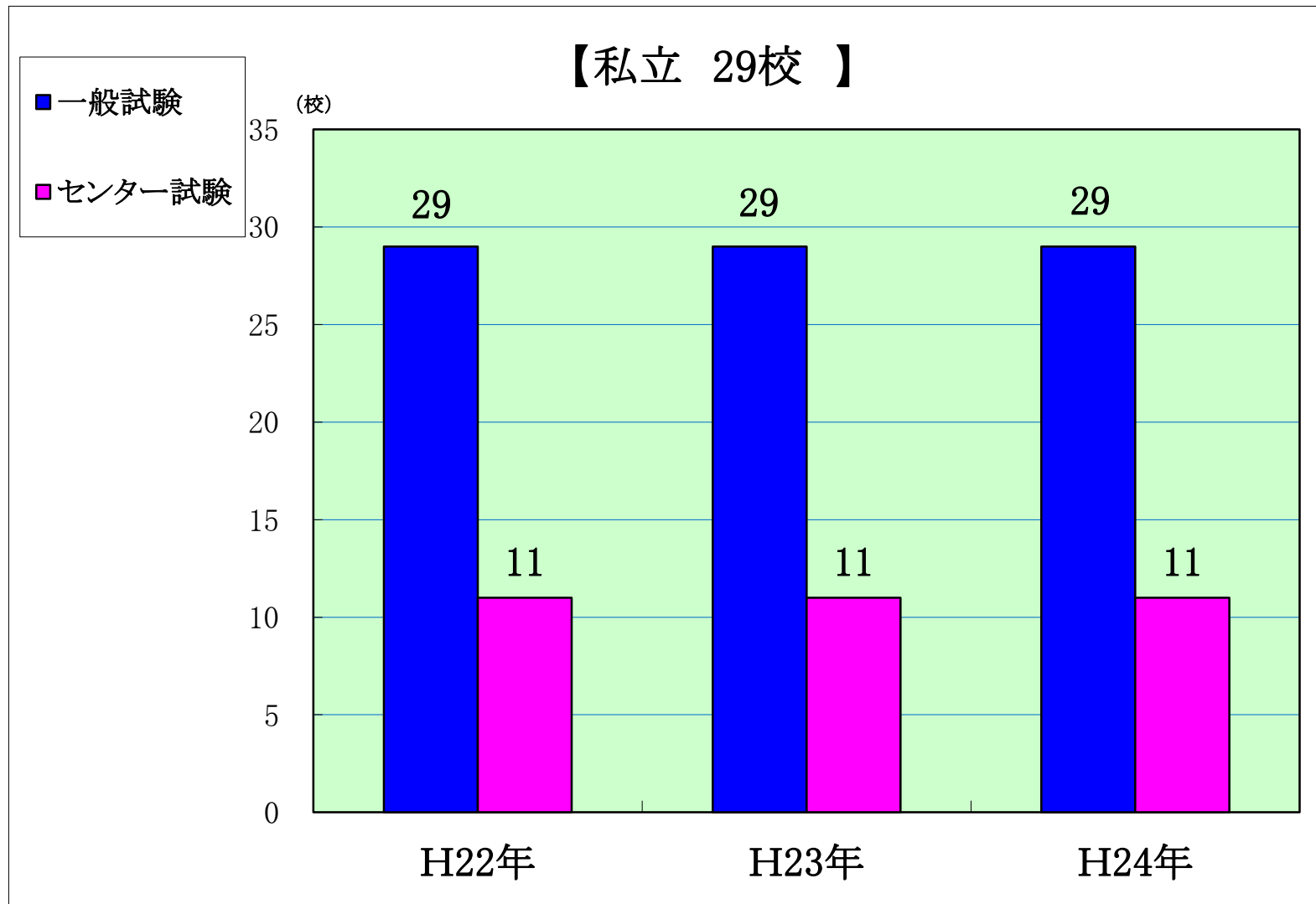
(校)



国公立大学の入試方法【特別選抜】

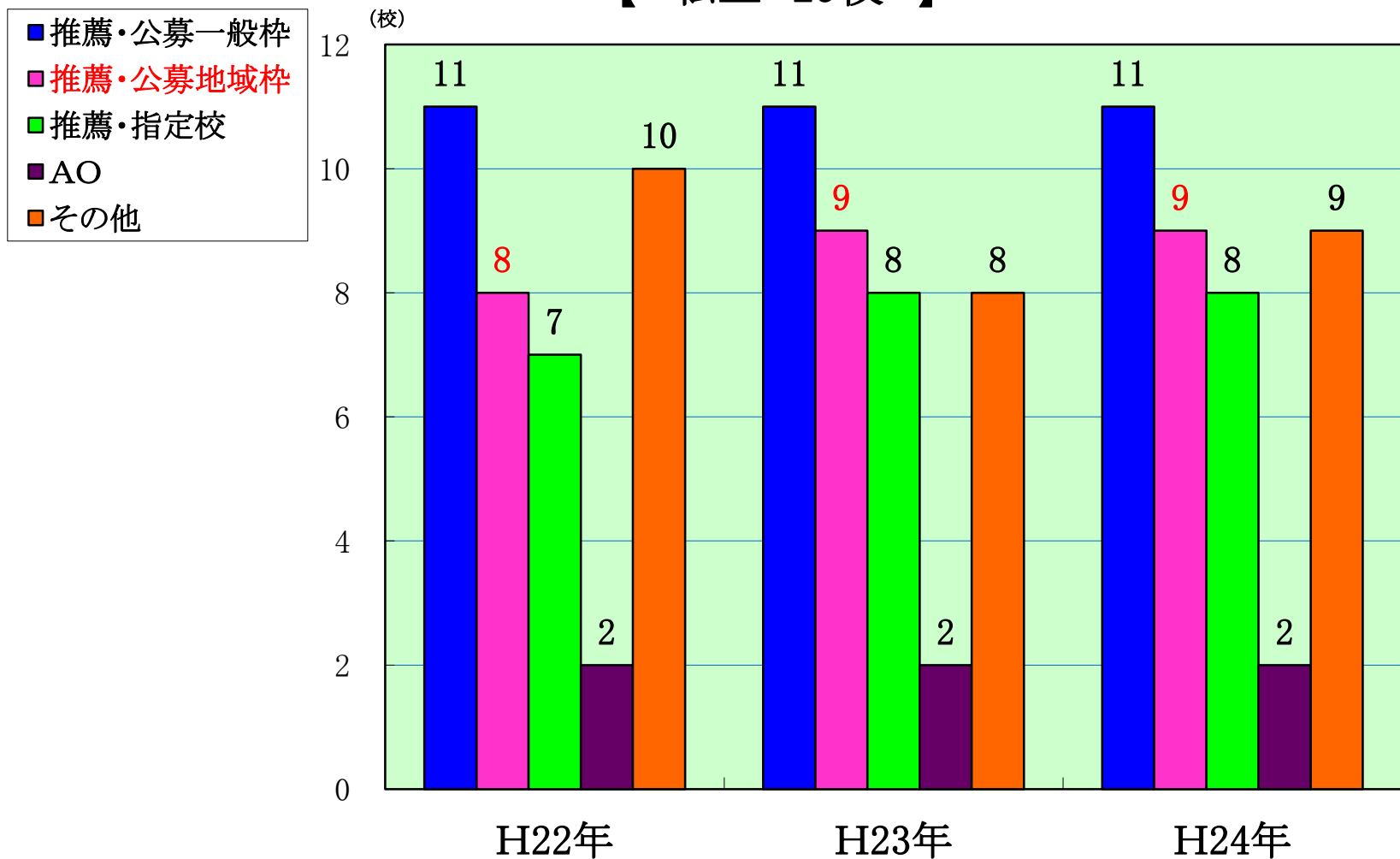


私立大学の入試方法【一般選抜】



私立大学の入試方法【特別選抜】

【 私立 29校 】



(参考資料)

平成24年現在、地域枠を設けている大学

国立 37 / 43 大学

公立 8 / 8 大学

私立 24 / 29 大学

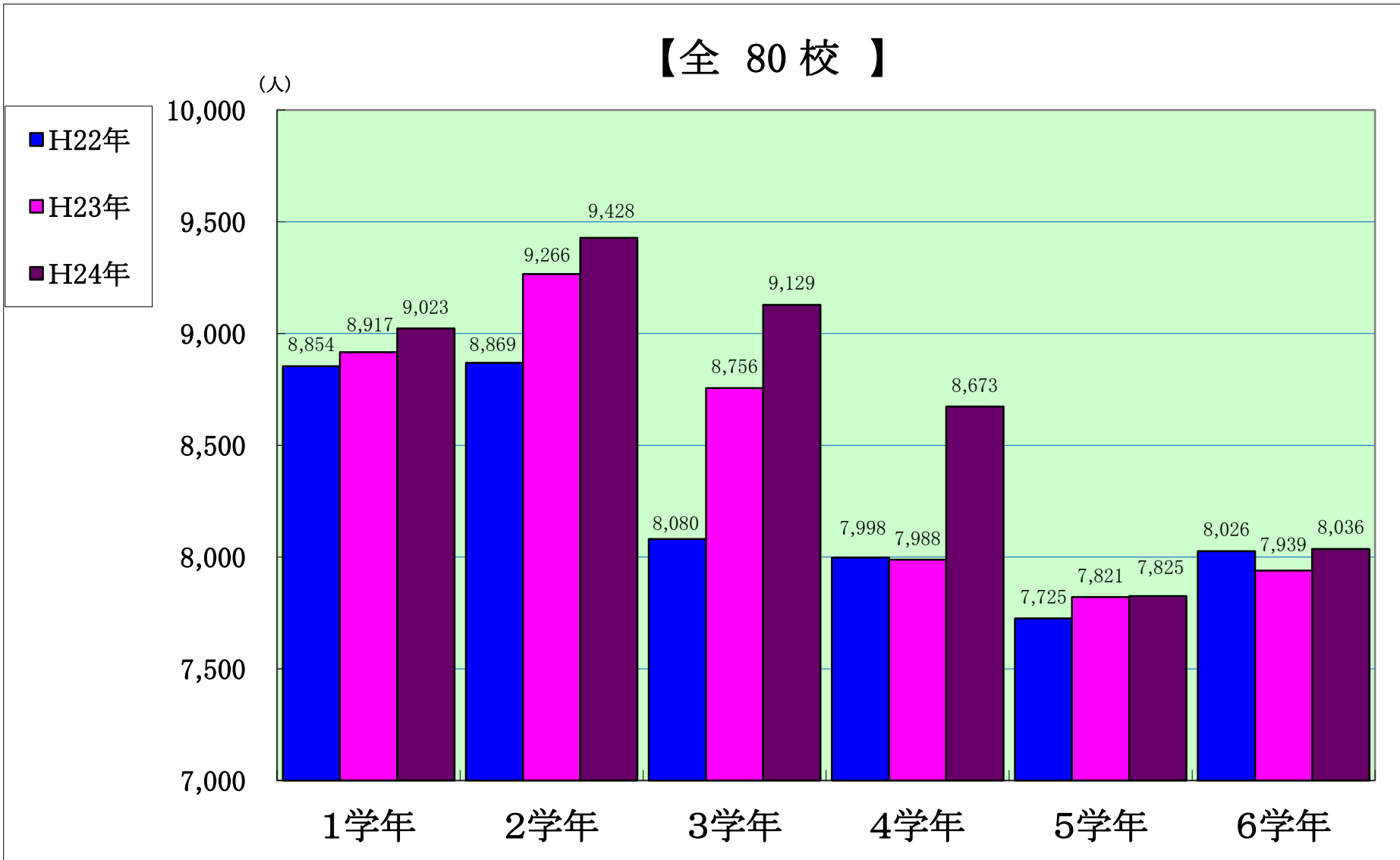
合計 69 / 80 大学

地域枠 合計 1,408名

(自治医科大学123名を含む)

過去3年間の学年別在籍学生数

【全 80 校】



(参考資料)

過去5年間の入学定員の推移

H19年 7,625名 (抑制時定員)

H20年 7,793名 (+ 168名)

H21年 8,486名 (+ 693名)

H22年 8,846名 (+ 360名)

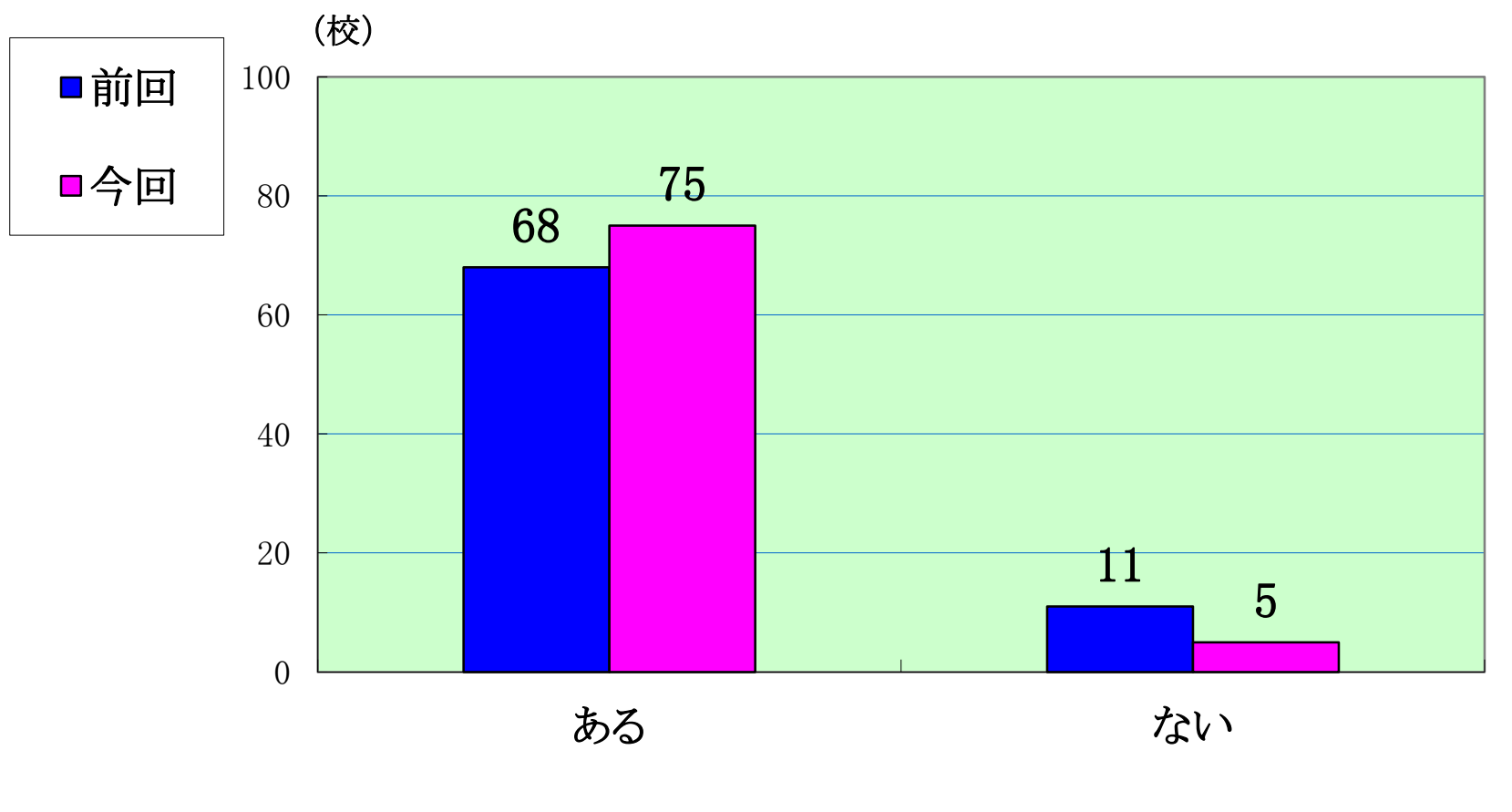
H23年 8,923名 (+ 77名)

H24年 8,991名 (+ 68名)

(累計増員数 + 1,366名)

「教員から学生の学力が低下している という意見があるか。」

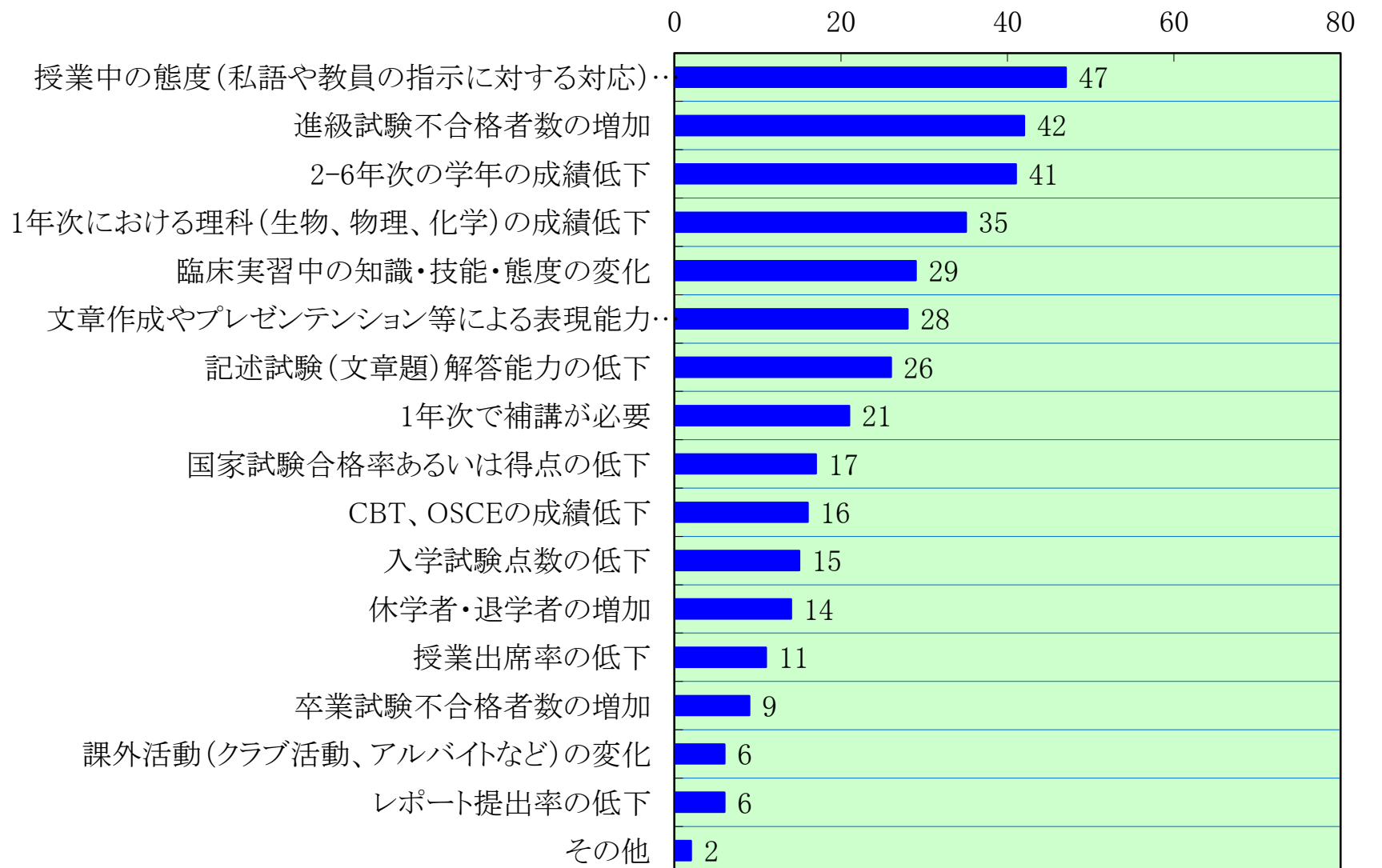
【 全 80校 】



「学力が低下しているとする根拠」

【全 80校 (複数回答)】

(校)

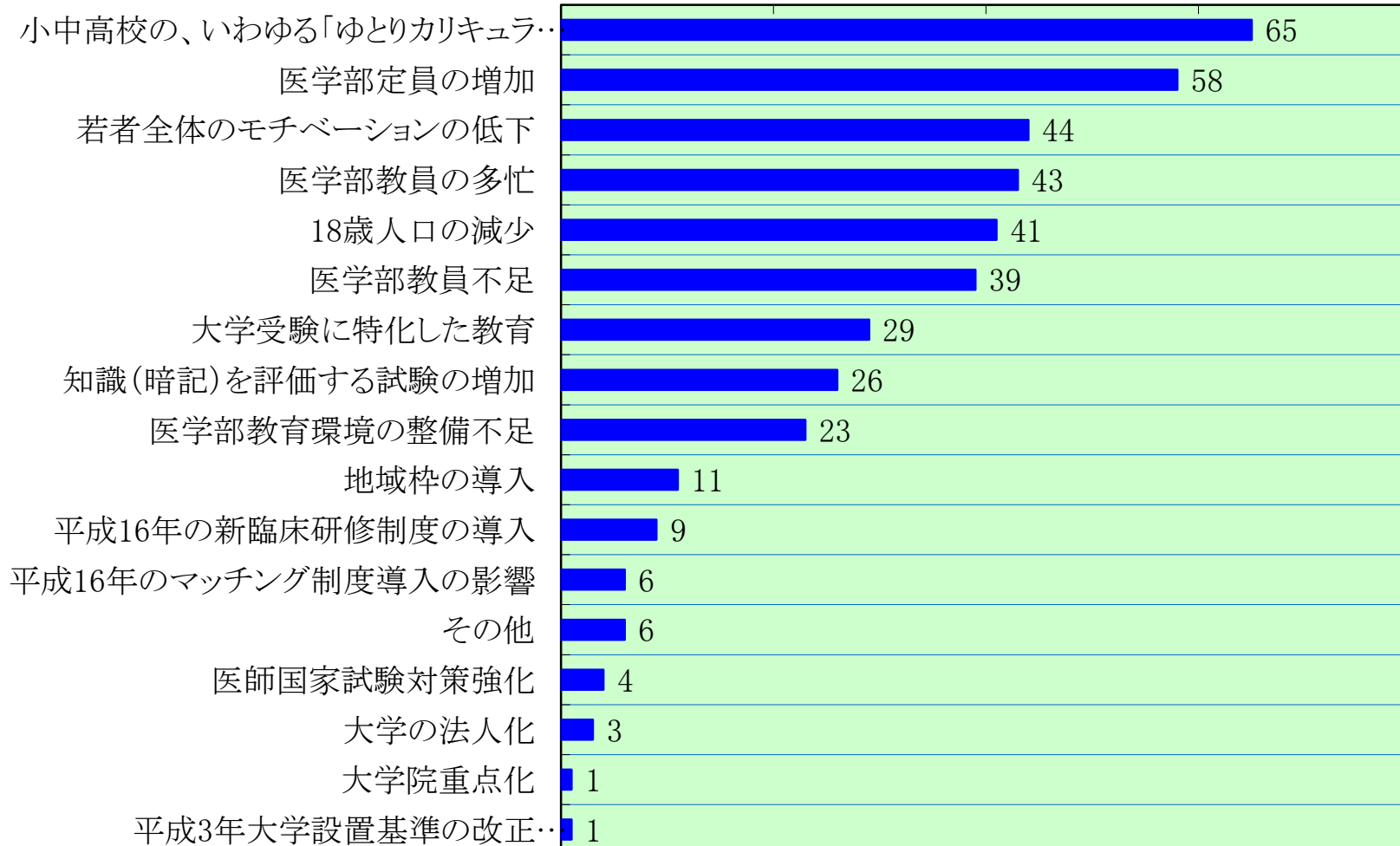


「学力が低下が懸念される原因について」

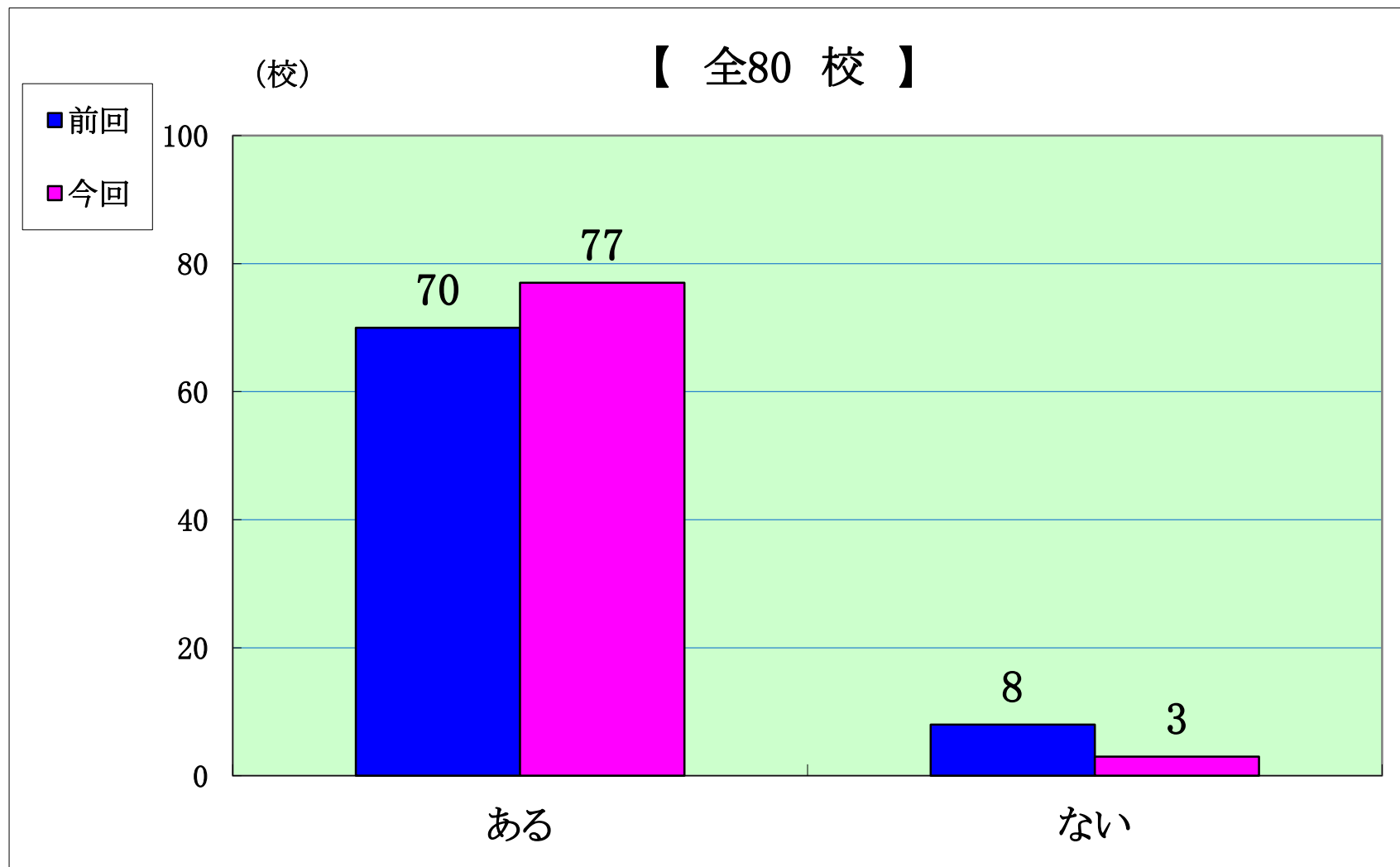
【 全80校（複数回答） 】

(校)

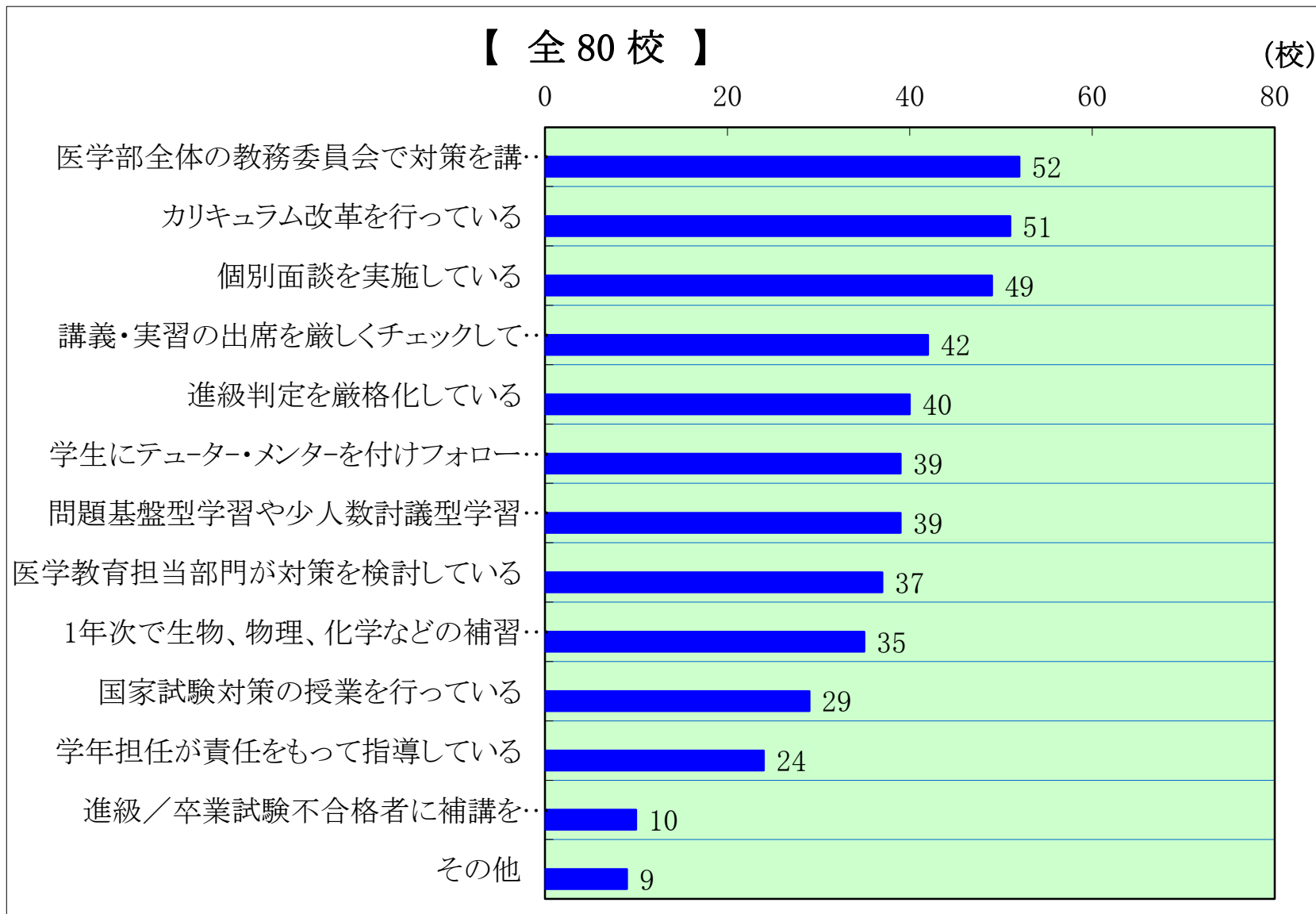
0 20 40 60 80



「学生の学力に対する何らかの対策を講じたか」



「対策に該当するもの(複数選択)」

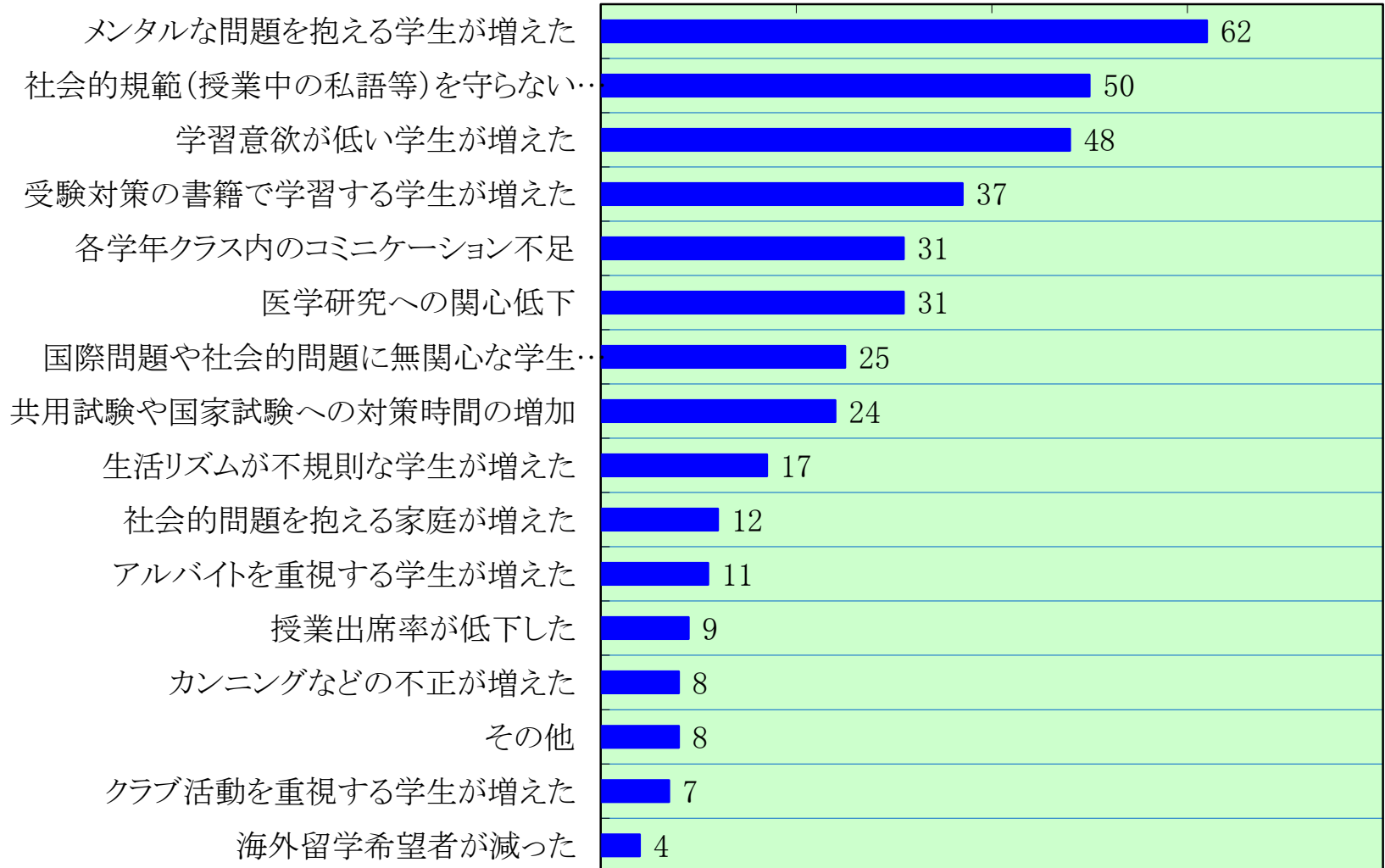


「学力低下以外の問題点(複数選択)」

【 全 80校 】

(校)

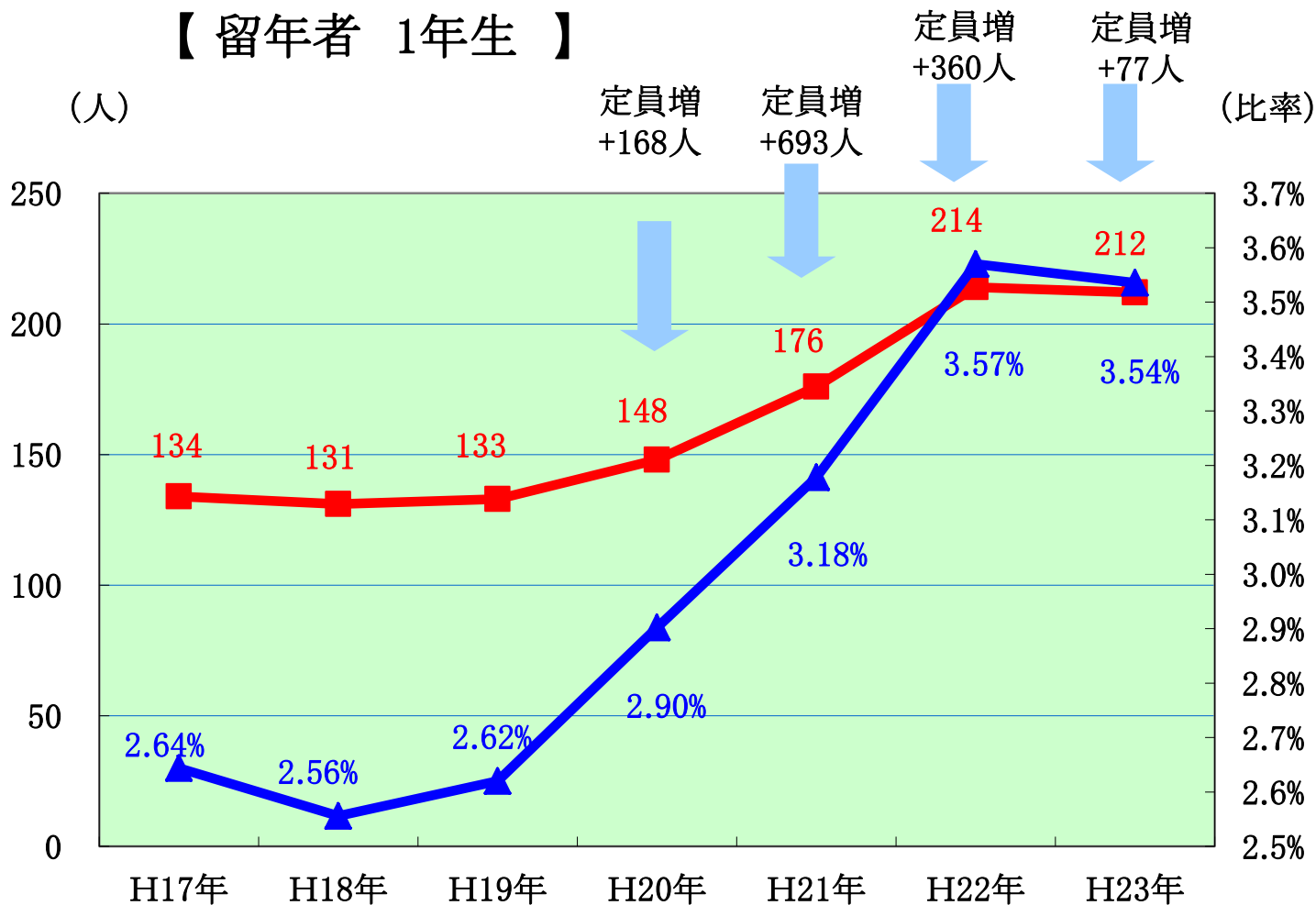
0 20 40 60 80



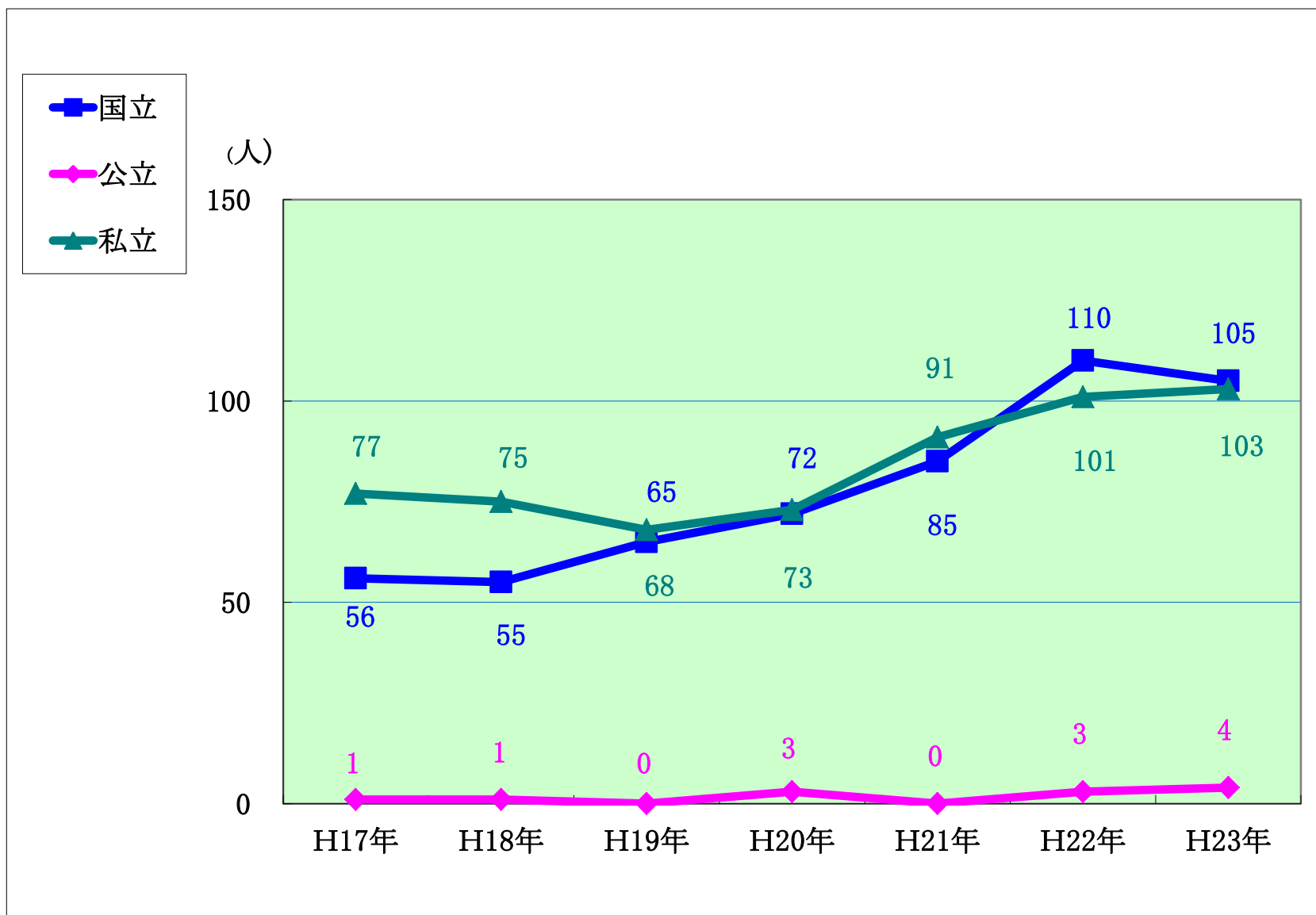
留年者(1年生)の推移 (53大学: 国立30校、公立2校、私立21校)

【 留年者 1年生 】

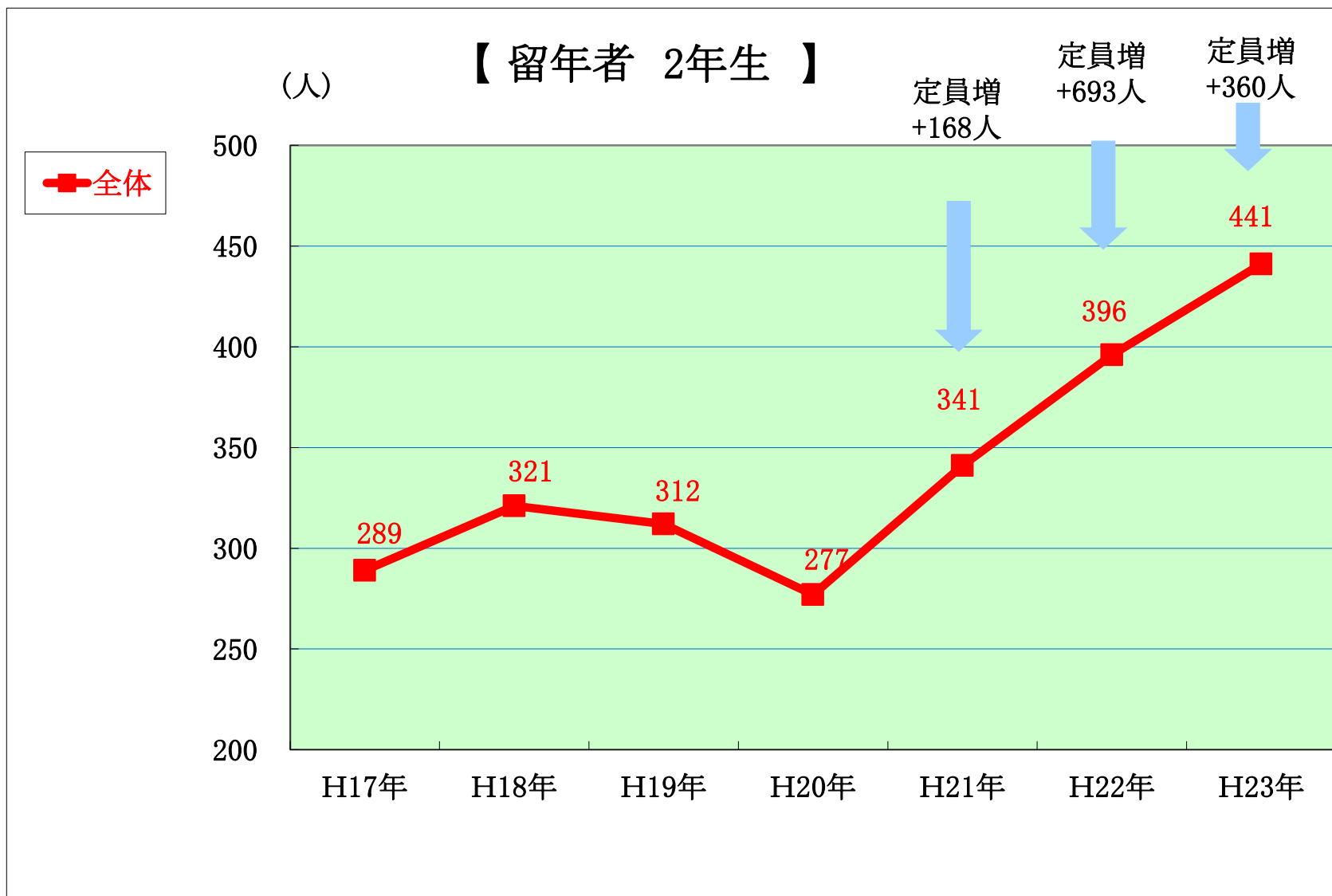
- 留年者数
- ▲ 留年比率



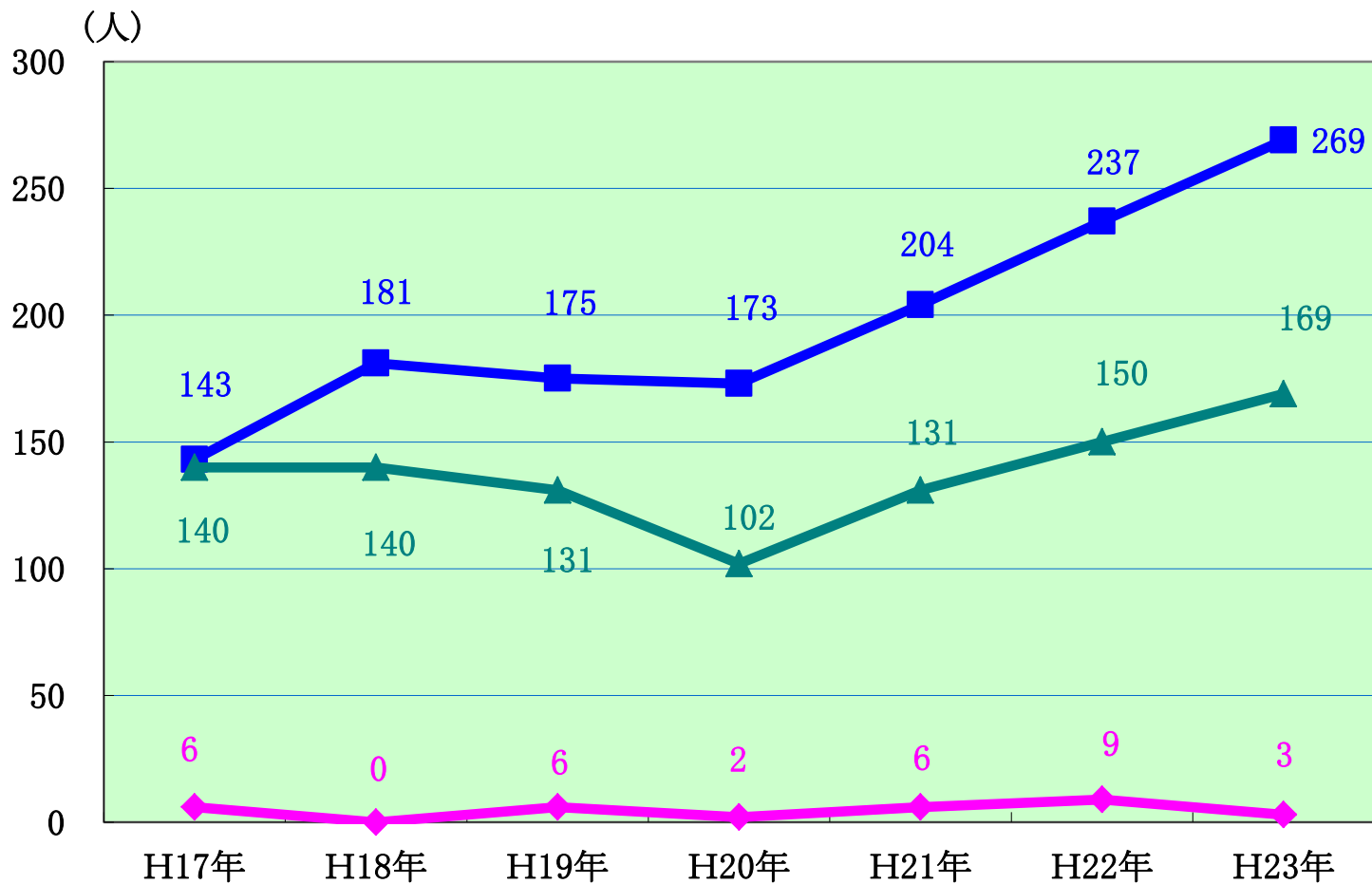
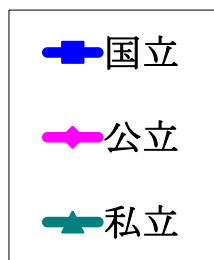
留年者1年生の推移 学校種別



留年者(2年生)の推移 (53大学: 国立30校、公立2校、私立21校)



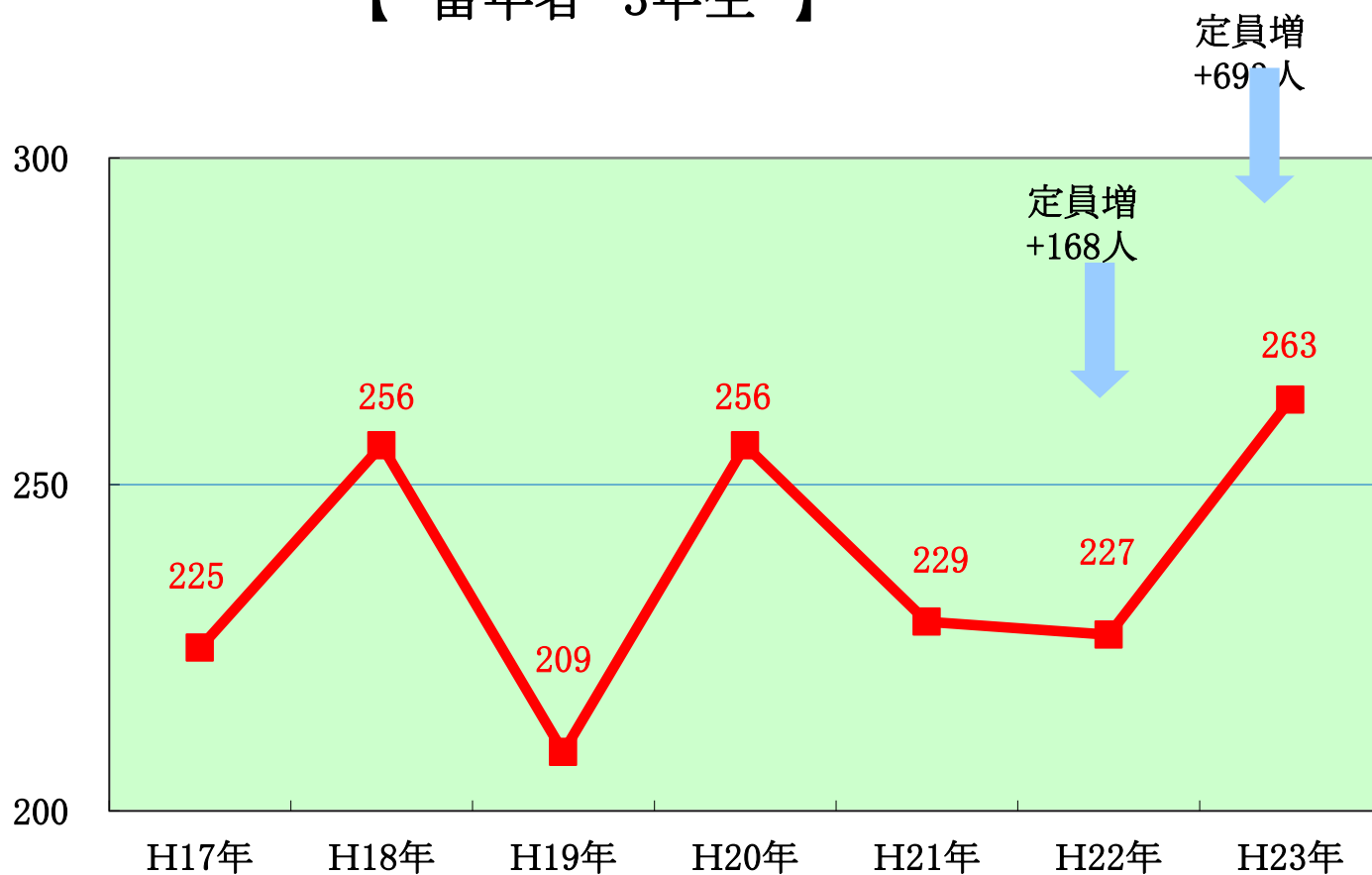
留年者2年生の推移 学校種別



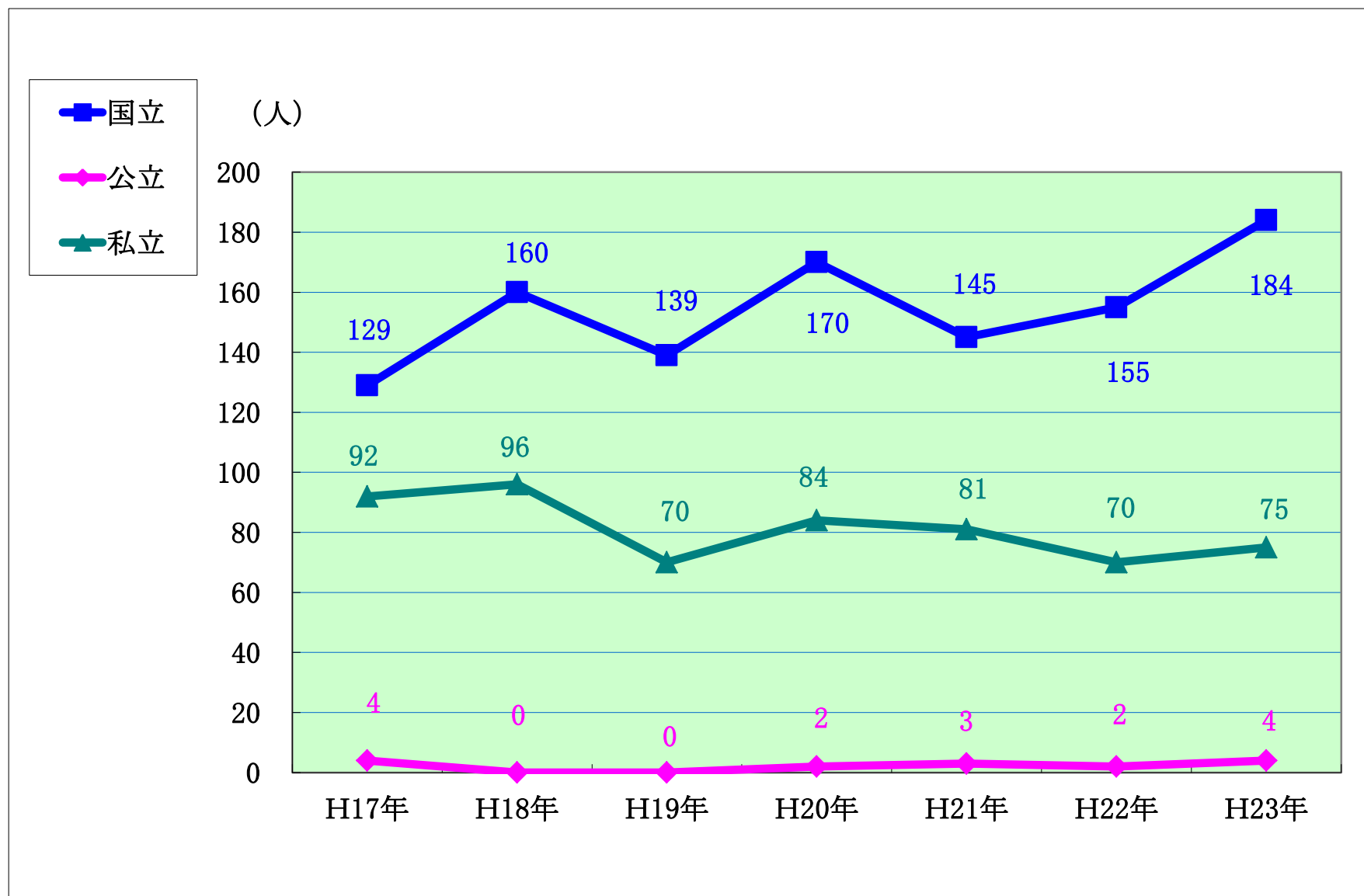
留年者(3年生)の推移 (53大学: 国立30校、公立2校、私立21校)

【 留年者 3年生 】

■ 全体



留年者3年生の推移 学校種別

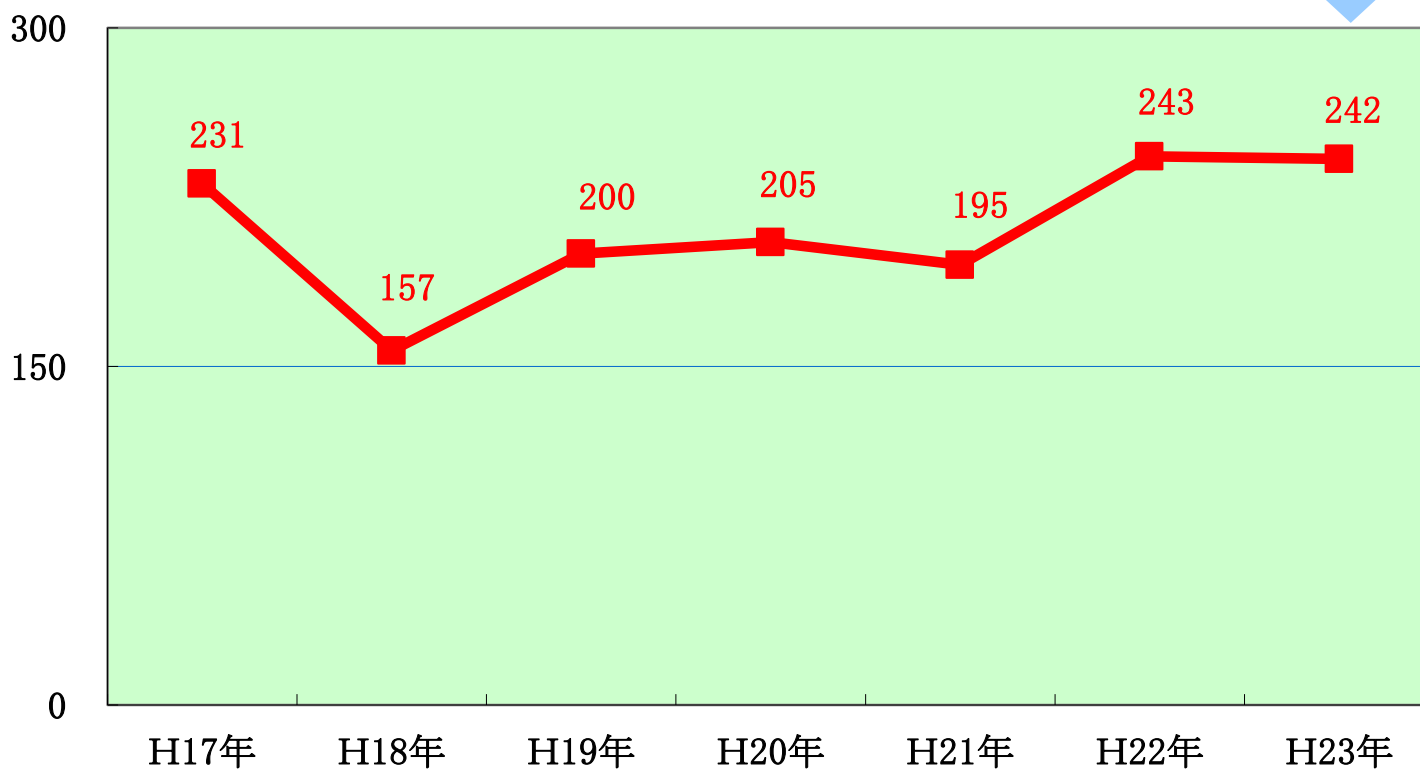


留年者(4年生)の推移 (53大学: 国立30校、公立2校、私立21校)

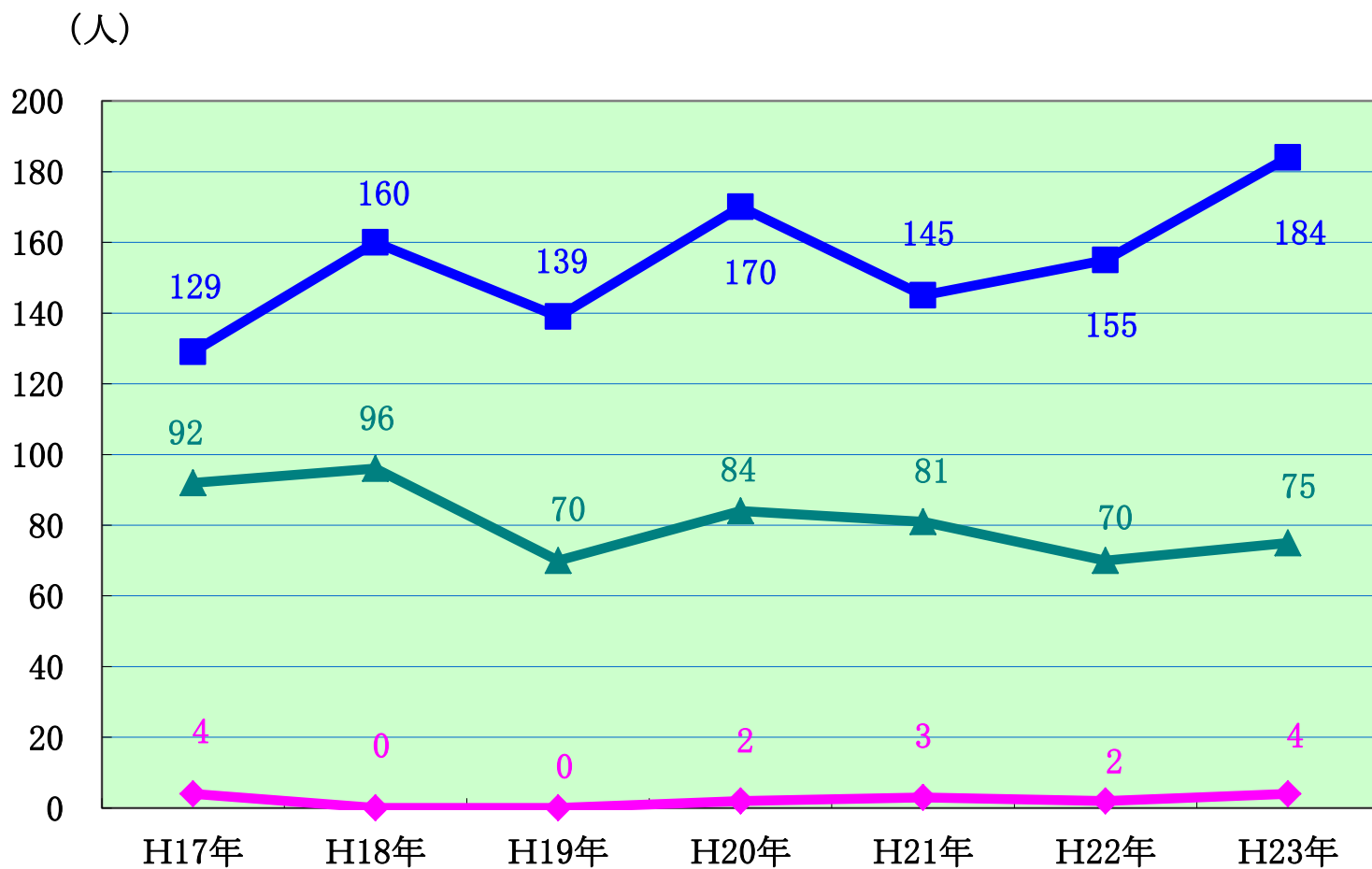
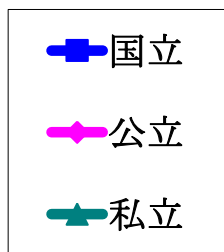
【 留年者 4年生 】

定員増
+16人

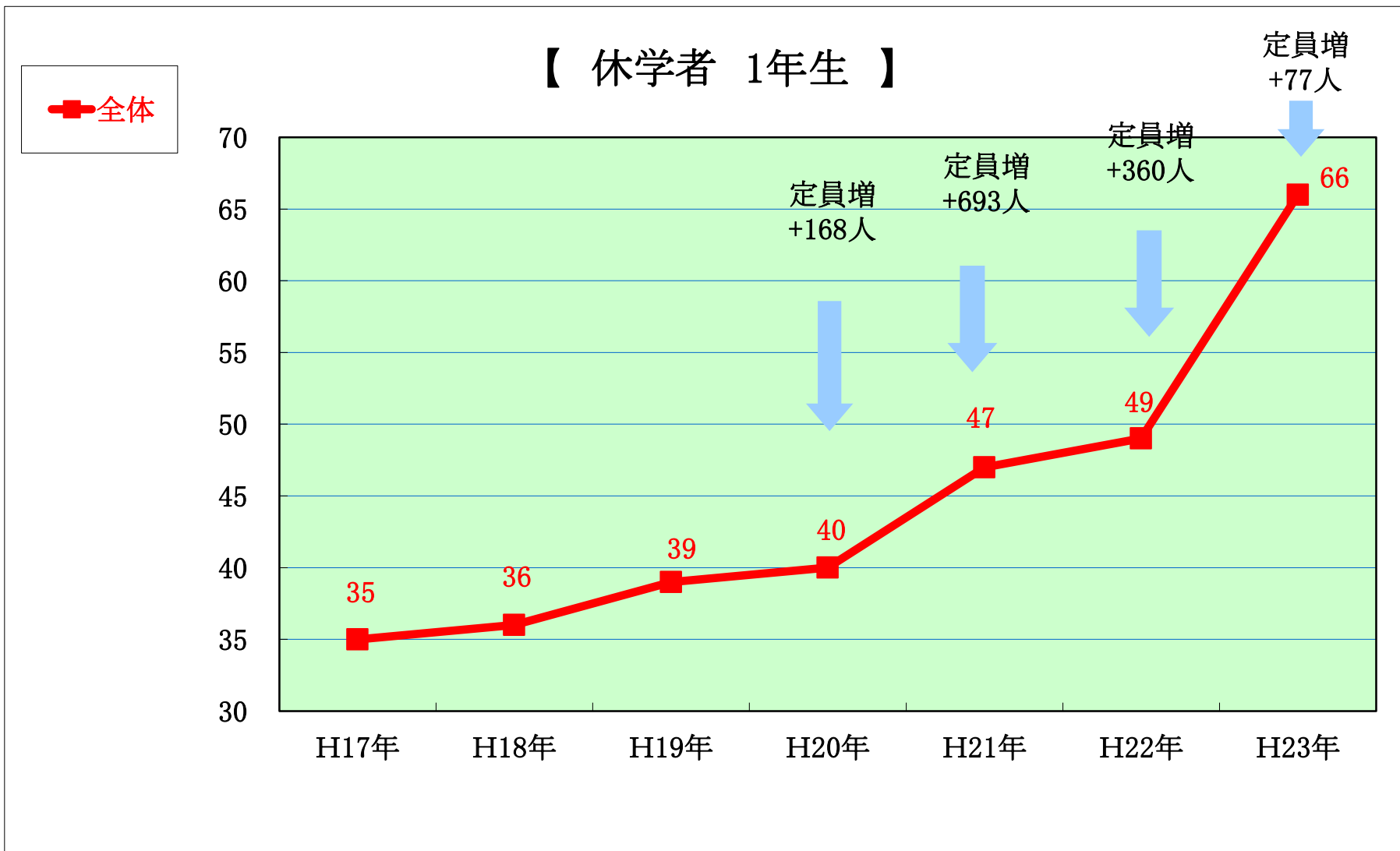
■全体



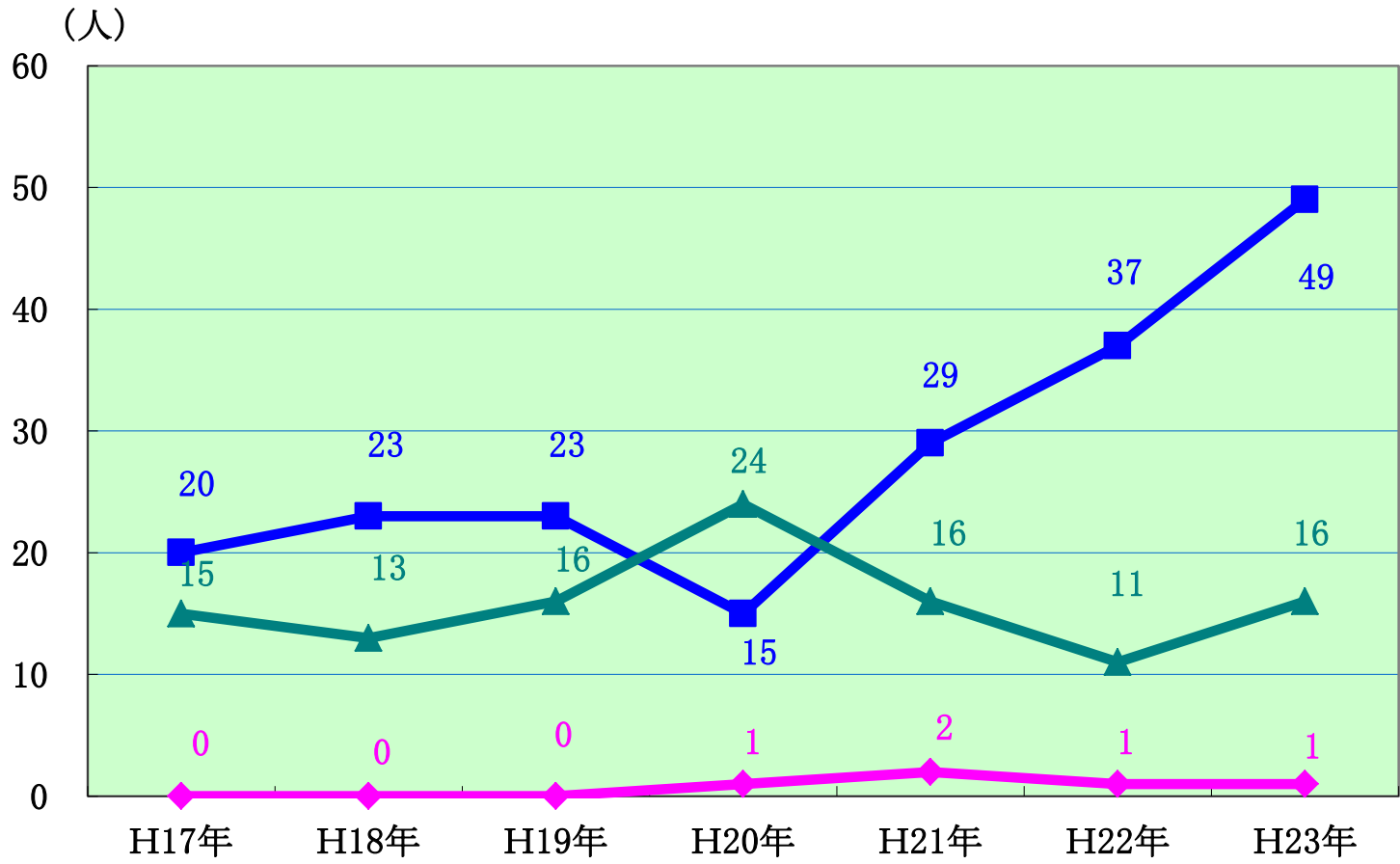
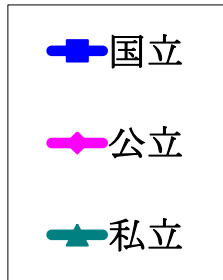
留年者4年生の推移 学校種別



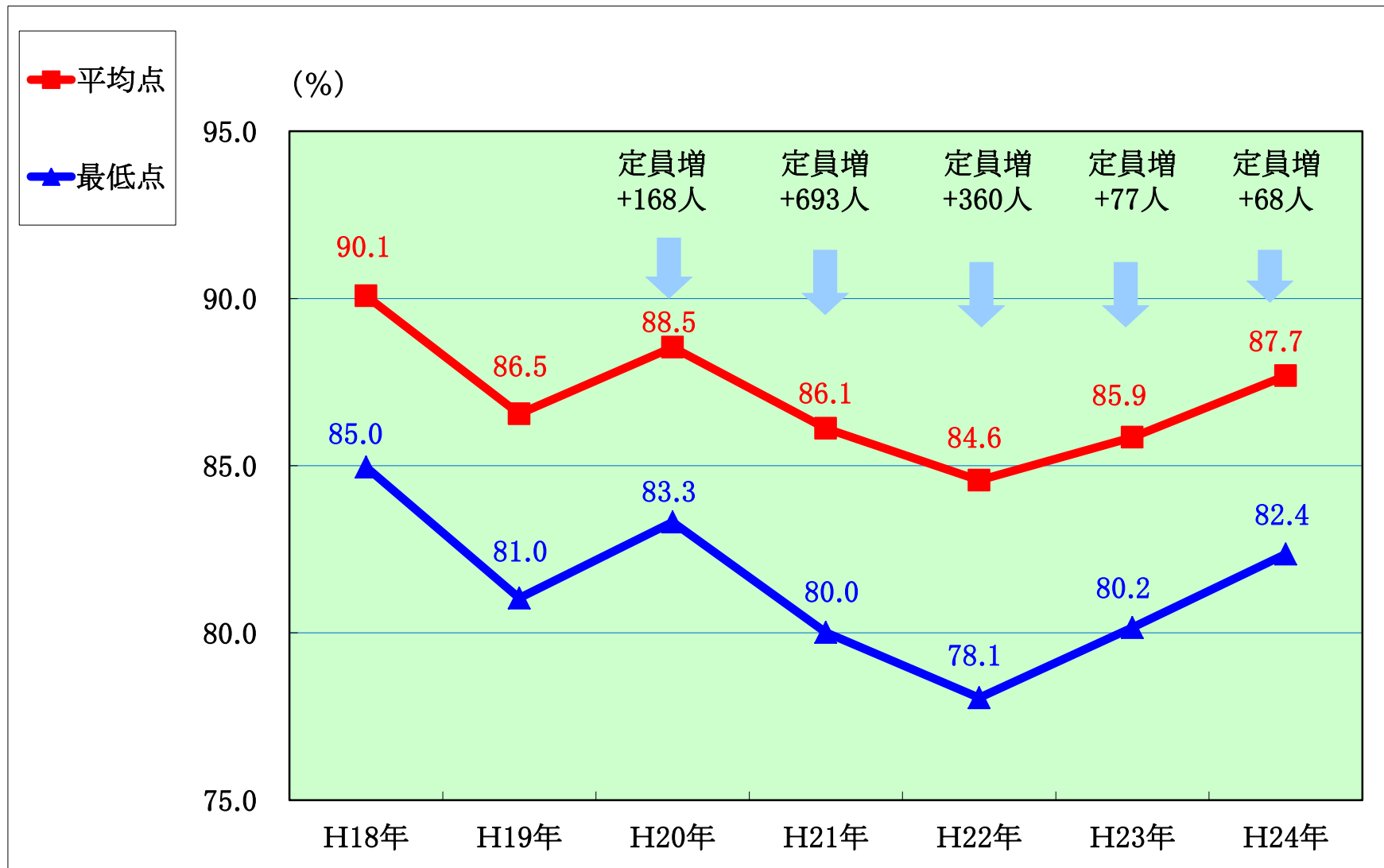
休学者(1年生)の推移 (50大学: 国立28校、公立2校、私立20校)



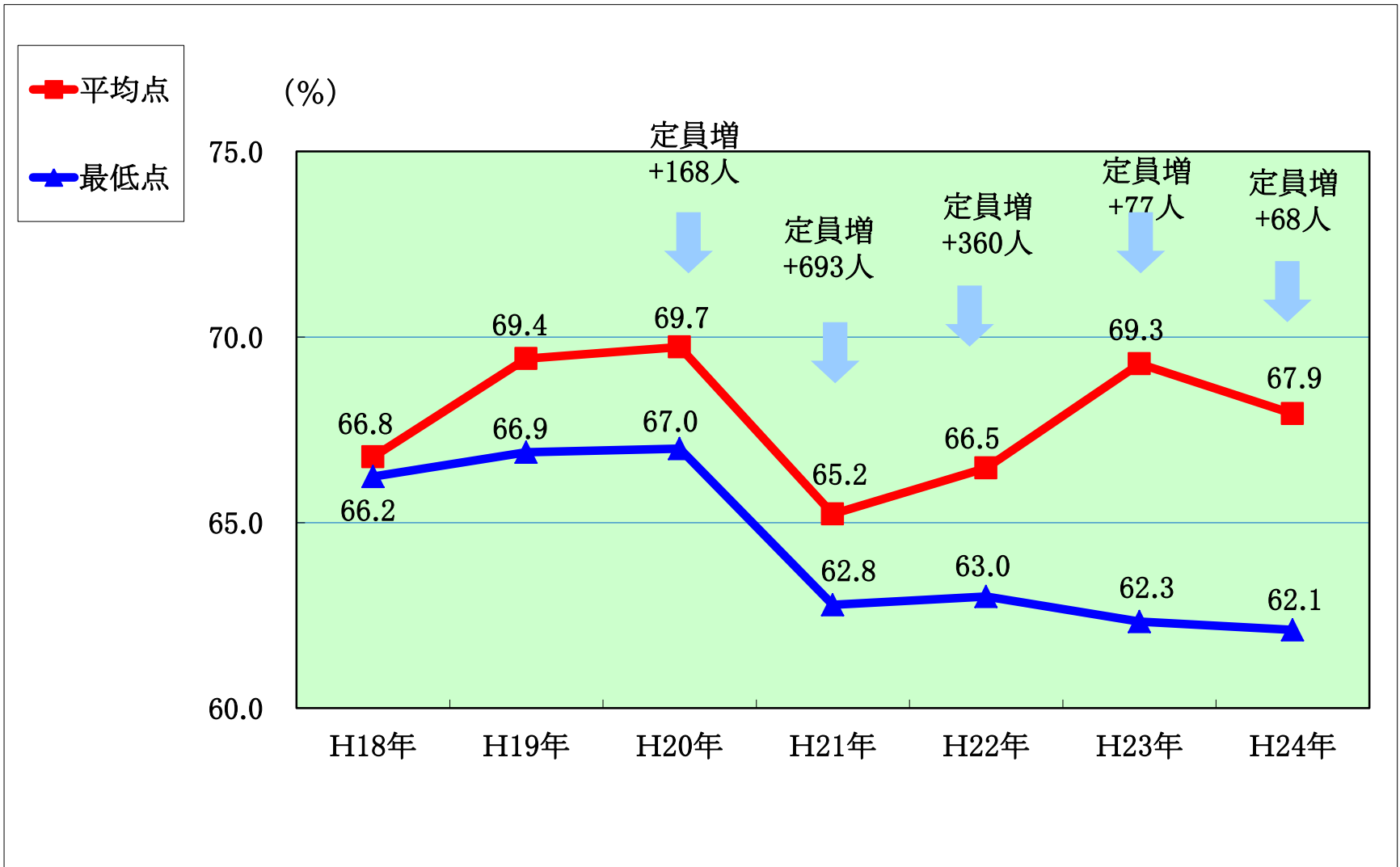
休学者1年生の推移 学校種別



入試センター試験（前期一般選抜試験最終合格者）の平均点と最低点の推移（31大学：国立25校、公立3校、私立3校）。

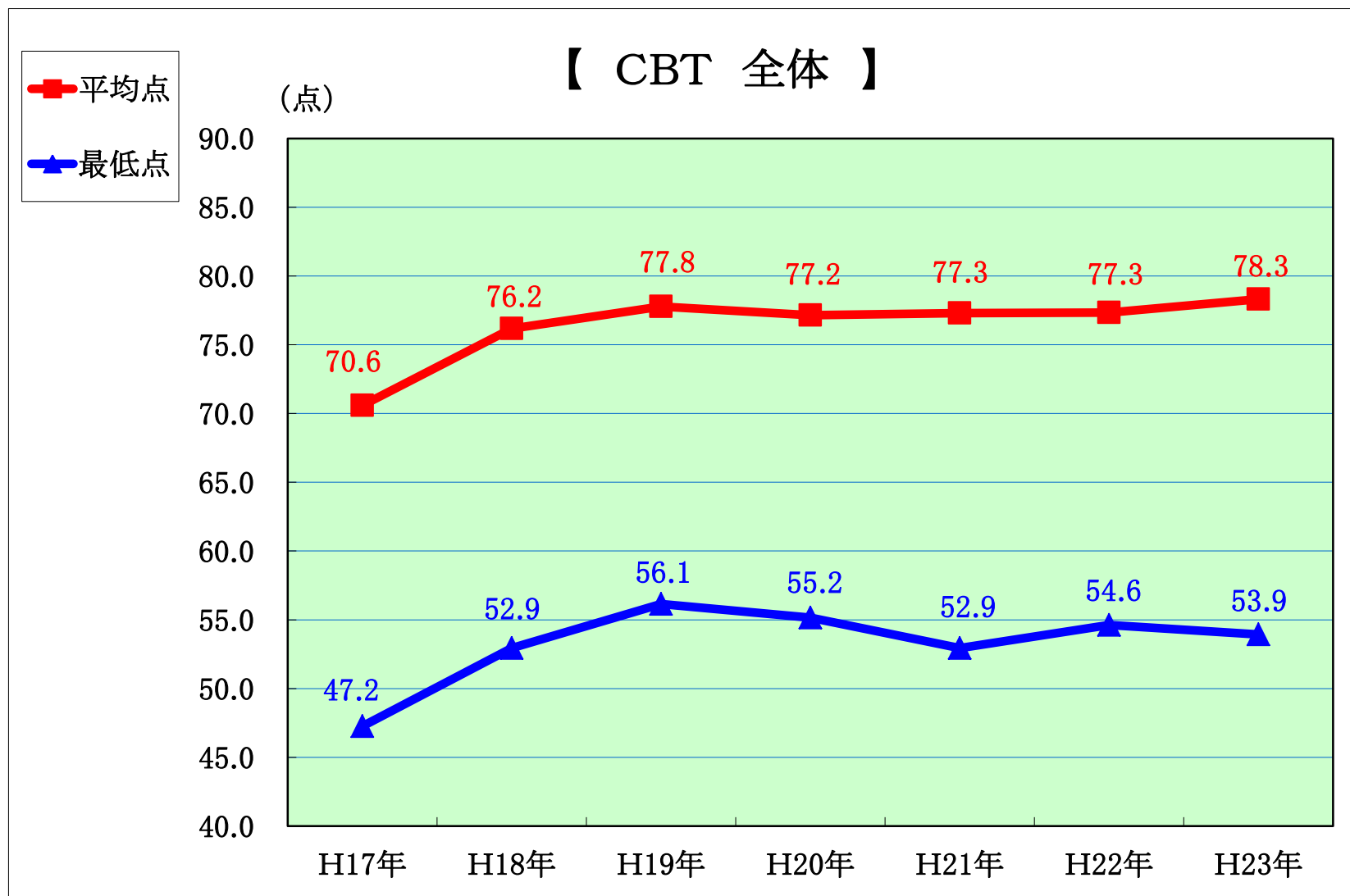


入試(センター試験なし)の一般選抜試験の最終合格者の平均点と最低点の推移 (私立7校).



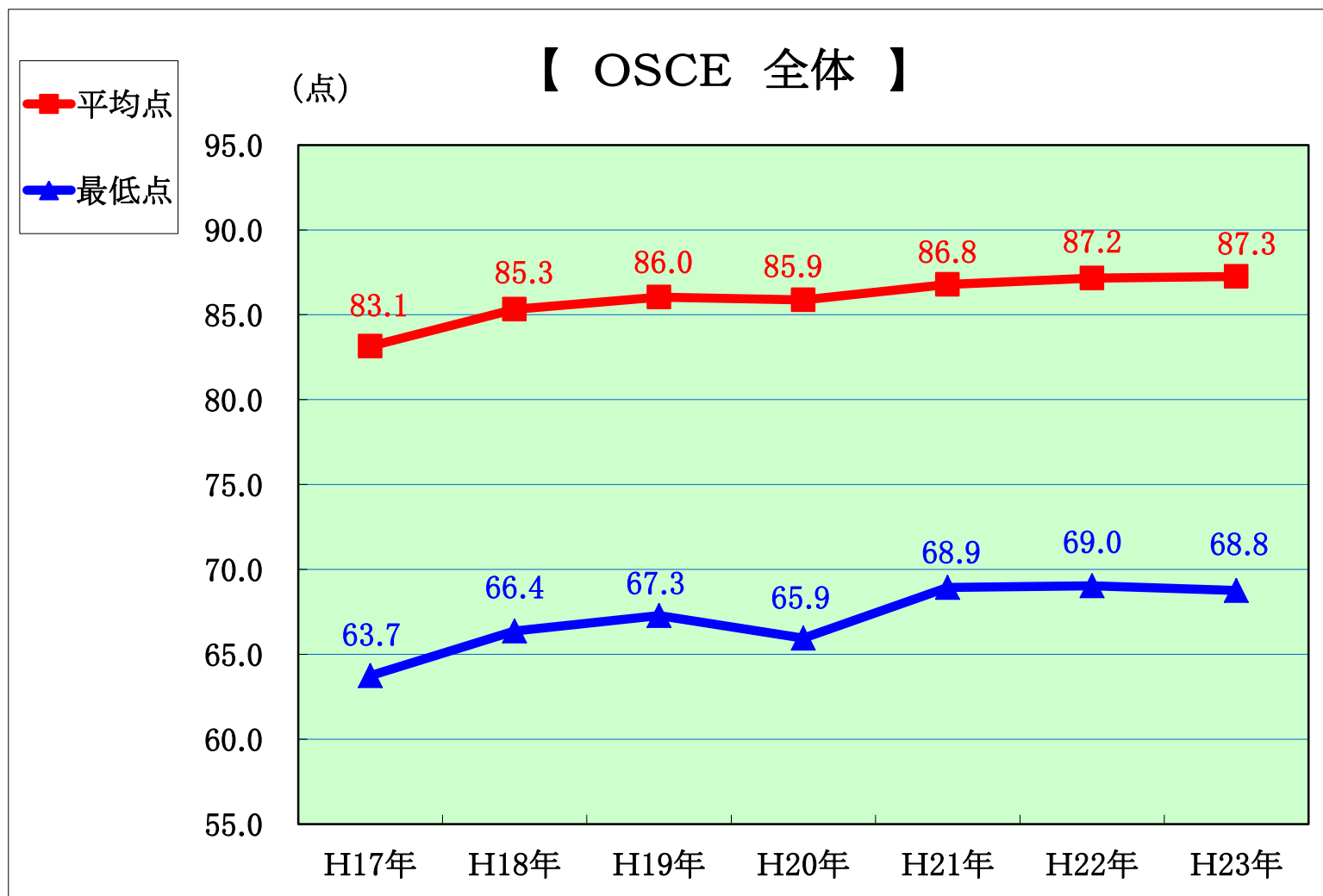
共用試験 CBT (4年生)の成績

(72大学:国立37校、公立6校、私立29校)



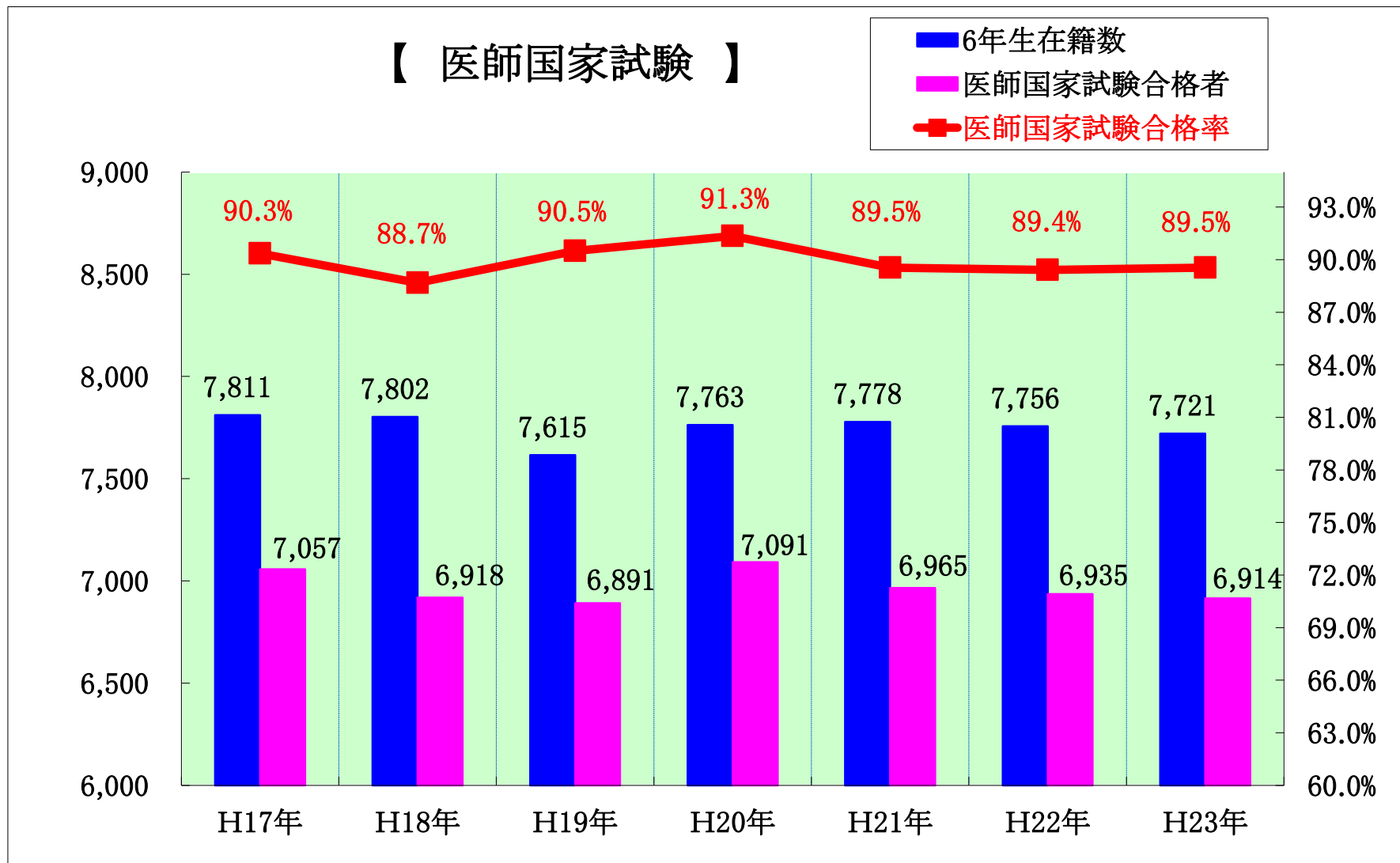
共用試験 OSCE(4年生)の成績

(62大学:国立33校、公立4校、私立25校)



医師国家試験の成績

(79大学：国立43校、公立8校、私立28校)



まとめ

1. 多くの教員は、医学生の学力が低下していると感じており、ほとんどの大学が様々な対策を講じている。
2. 過去5年間の入学定員増以降、1-4年生の留年者が経年的に増加、1年生の休学者も明らかに増加している。
3. 前期一般入試合格者のセンター試験の成績は、ここ1,2年回復傾向を示している。また、センター試験を採用していない大学の入試の平均点も急速に回復しているが、最低点は低迷しており、志願者が二極化している可能性がある。
4. 学力以外にも、様々な問題を抱えた学生が増えている。
5. 少子化の進展により、医学部入学の門戸はさらに拡がることが予測され、これ以上の大幅な定員増は医学生の資質の一層の低下を招く恐れがあり、また、教員の負担増も強く懸念される。